

國際労働會議をかくは如何に組織するか、して来たか。

可然くは本より國際労働會議そのものに対して大なる期待をもつては無い。然しながら労働條件の劣悪なことを、生産階級の政治的自衛の極めて極限せられたところ、於いて國際的に最も劣弱なる地位に在る資本國労働階級にとりては、尚現時的に利用すべき価値あることを認むるに可い。

(十五年三月五日國際労働代表連合全國労働組合協議會宣言書)

現時的に利用すべき価値、それは何を指すか。

可——世界各國を通じて、社会政策的施設を在る人とするに當り、産業競争の狀態にある階級上甲の國の逐逐的施設は、乙の甲の進歩的施設を妨げる利益に陥るので、この足並を揃へ、お互に益少づゝなりとして社会施設を討り、労働者の向上のために討らうとするのである。(十二年廣労働代表資本家同族同の競争を利用して、労働階級の利益を獲得しようとするのである。そして資本家階級は、労働代表を利用し、お互ひに討抗面の労働條件を向上せしめることに依つて、自國アルジョアの利益を討らうとしてゐるのである、といふのである。

果してそれだけか？ 否——果してそれだけ否か？

國際労働會議に於て次第にまた條約案が、各國に於て是れを實施せられ、國際労働會議も何等の必要に対する強制力を有つて居るにも拘らず、各國アルジョアは、國際労働會議を、競争國の労働

條件を引き上げるために設置し、而してそれを目的に労働代表を参加せしめてゐるのだからか？

これは所謂本末の顛倒である。

國際労働會議は、各國に於けるプロレタリアの革命的運動、而してプロレタリアの國際的團結を開放せしめて、その首領を要せんための機關なのである。

右翼首領如何にこれを宣傳しつゝあるかを見よ。

可然くは日本に於て労働總會(國際労働會議)の所謂「社会正義」の樹立は日本小作農民の参加を除くして考へることが出来ない(労働報告書)。

而して國際労働會議の「社会正義」の正体を察知することではなかつて、社会正義を支持してゐるのではないか。斯くして彼等は國際労働會議を資本家と政府と労働者が集まつて、社会正義の樹立のために協賛する場所にしてしまふ。

國際労働會議は、斯かるブルジョアの意圖に依つて改造されたものである。

果して各國に於いて條約案が実施されてゐるか、何うか、考へよ。考へよ。主たる層々事ではない。然しあまり次第のしつぱなしでは、その本末の目的たる「マン様」といふ小次になつて、なくなる。そこで、所々所謂各國の「不滿意」を賣める。